

◇商店街の活性化支援

千葉県の商店街



出典 令和4年度千葉県商店街実態調査の結果について

松沢 商店街に対する支援について。

A 地域商業の活性化を図ることを目的に、商店街が行う街路灯のLED化や防犯カメラの設置等の施設整備、空き店舗の活用などによって新たな取組を行う新規的な事業等、今後の地域商業の活性化のための計画の策定を行う商店街に補助を行っている。

松沢 施設整備事業について。

A 令和4年度の施設整備事業はLED化を含めた街路灯の設置等に対する補助が多く、7商店街から街路灯のLED化や防犯カメラの設置等について申請があり、補助を行った。

松沢の視点

商店街が設置した街路灯は、市町村の補助を合わせて商店街が維持管理している。会員の減少が続いており、街路灯の維持管理の負担が増えている。千葉県の補助制度では、撤去のみを目的としたものはなく、街路灯やアーケード、アーチ等の撤去に対する補助制度の創設も必要と考える。

7月22日(土)、第58回千葉県消防操法大会が市原市にある千葉県消防学校にて開催され、地域を代表する17の消防団による消防操法演技が披露された。地域防災体制の強化に役立てることを目指し、消防活動に従事している消防団員の訓練の成果と士気高揚を図ることを目的としている。

千葉県と鎌ヶ谷市の消防団



出典 千葉県消防防災年報(H23年,R3年)



松沢の視点

鎌ヶ谷市の消防団員数は令和3年度149名、定数177に対して84%の充足率である。10年前と比較し、消防団員の平均年齢も上昇しており、新たに入団を促す告知も重要である。さらに消防団への理解を得られるよう環境整備等を整える必要がある

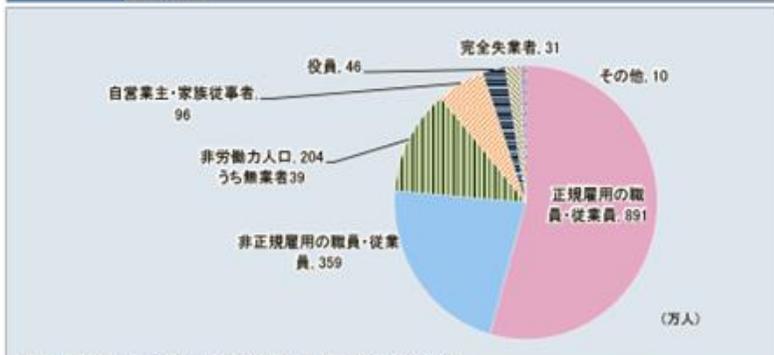
千葉県では女性消防団募集のPRを実施していますので、ご覧ください。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shoubou/shoudan/documents/leaflet.pdf>

～市民の声を県政に～

◇雇用に関する支援策

図表1-3-27 就職氷河期世代の中心層となる35～44歳(1,637万人)の雇用形態等の内訳(2019年)



出典 令和2年版 厚生労働白書-令和時代の社会保障と働き方を考える-

松沢 就職氷河期世代支援加速化事業の現状について

A 令和4年度末までの3年間について、県の事業の進捗状況は、新規窓口利用者数が目標900名に対して994名、就職決定者数が目標420名に対して347名。

松沢 今後の展開について

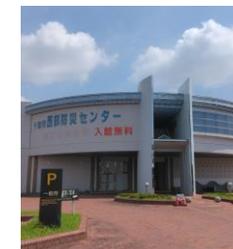
A 当初、令和4年度末までであったが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり全国的に更に取組が必要とされ、2年間延長され継続することとなった。県でも引き続き連絡会議を通じ関係機関と連携しながら、必要な周知・啓発や各種支援策について県全体で取り組んでいきたいと考えている。

松沢の視点

再就職や転職をしようとしている方への職業訓練も実施している【ちばテクノスクール(千葉県立高等技術専門学校)】にて、入校優先枠の設定や受講料の減免等、キャリア形成を目的とした支援を検討する余地がある。

第44回九都県市合同防災訓練(千葉県会場) 9月2日(土曜日)10時から13時に、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、横浜市、川崎市、相模原市、千葉市、さいたま市の九都県市が、各自治体において防災訓練を実施している。令和5年度の千葉県会場は我孫子市にある川村学園女子大学(我孫子市下ヶ戸1133)で開催される。大地震を想定し、被災者の救出救助や避難所設営等、実践的な訓練を行う。

また、千葉県西部防災センター(千葉県松戸市松戸558-3)では、防災に関する正確な知識と技術、防災に対する意識の普及・啓発を図るため、体験ツアー等を実施している。



災害の備え・教訓

関東大震災が発生した当時の鎌ヶ谷村の人たちは、被災者に対する積極的な援助を行ったとの事。さらに関東大震災から1年が経過した大正13年に「震災記念」と刻まれた石碑を建て、過去の教訓を伝承している。



鎌ヶ谷市総合防災訓練

9月24日(日) 10時～12時

鎌ヶ谷市役所・鎌ヶ谷市総合福祉保健センター

松沢の視点

今年は、1923年(大正12年)9月1日に発生した関東大震災から100年。記憶・教訓を継承し、一人ひとりの防災意識の向上、地域の防災力を高めることが重要である。